九州大学芸術工学部公開講座

絆の環境設計

「これまでの絆」から「これからの絆」へ

―環境設計から考える「絆」の編み直しかた

Ⅰ 10/11 thu

地域・アクティビティ・絆
―場所に生きる―

谷正和
田上健一
鵜飼哲矢

Ⅱ 11/8 thu

都市・芸術・絆
―モダニティー―

土居義岳
古賀徹
山内泰

Ⅲ 12/6 thu

緑・社会・絆
―エコロジー―

朝廣和夫
藤田直子
近藤加代子

Ⅳ 1/10 thu

歴史・文化・絆
―過去との対話―

藤原恵洋
岸泰子
福島綾子

流行語ともなった「絆」。環境設計では、それぞれの分野で、「これまでの絆」を捉え直し、「これからの絆」へと編み直すことが求められています。本公開講座では、九州大学芸術工学部環境設計学科の教員を中心に、哲学、文化人類学、経済学、文化遺産学、ランドスケープ学、建築学など専門分野から、様々な「絆の編み直しかた」を考えます。

リノベーションミュージアム
冷泉荘
B棟1階2コ1多目的スペース
（福岡市博多区上川端町9-35）

コーディネーター／土居 義岳

主催／九州大学芸術工学部環境設計学科
後援／NPO法人 福岡ビルストック研究会

I 10.11 thu 19:30-21:30
地域・アクティビティ・絆 ー場所に生きるー

建築といえば、素敵な建物を作る…といったモノづくりの印象が強いかもしれません。しかし今日では、地域のあるべき人間関係（コミュニティ）が活きるように空間をかたどる思考が求められています。建築のモノ化・私有化から、そこで生きる人々の関係性を空間に折り込み、人々のあらたな絆をつくる建築へ。南アジアの調査や建築ワークショップの実践例から考えます。

谷 正和（芸術工学研究院 環境・遺産デザイン部門 准教授）

南アジアの村々でいかに人をつなぐか

南アジアの農村に安全な水を供給する共用施設を維持管理するために、村コミュニティの絆がどのように働くか、働かないか、バングラデシュ、ネパールでの事例を紹介する。

田上 健一（芸術工学研究院 デザインストラテジー部門 准教授）

建築ワークショップは地域をつなぐことができるか

「建築家の立場から、地域の絆を紡ぐ建築ワークショップのポエチカについて、「実例」と「本音」を交えてお話し致します。たかが「ワークショップ」と侮ることなかれ。

鵜飼 哲矢（芸術工学研究院 デザインストラテジー部門 准教授）

人と建築と「まち」の絆

建築は人があって人が使ってはじめて建築になります。普段は見えていない絆を空間化することが建築の役目です。ここでは、住宅やお店、まちづくりなどについて紹介します。

II 11.8 thu 19:30-21:30
都市・芸術・絆 ーモダニティー

硬直化してしまった近代主義は今日なにかと批判されます。でもその姿は、もともとの近代の理念とはじつは同じではありません。近代の理念、そこにおける人とモノの関係、人と人の関係、つまり近代の絆が、近代化のプロセスの中でどのように変質していったのか。そしてその変化に建築、アート、哲学はどのように反応したのか。近代主義に対抗した様々な文化の営みのうちに、硬直化してしまった絆を解きほぐし、編み直すきっかけを探ります。

土居 義岳（芸術工学研究院 デザインストラテジー部門 教授）

近代都市建築と社会構想の理念

近代建築・近代都市の理論のなかにある、社会構想理念についてふれます。

古賀 徹（芸術工学研究院 コンテンツ・クリエーティブデザイン部門 准教授）

関係をつくるモダニティの思考たち

近代とはどういう関係を切断し、どのような関係を作ろうとしたのか、そしてその新しい関係性はなにゆえ人々を解放することなくその「縛り」となったかを、近代の思想家たちに即してお話しします。

山内 泰（NPO 法人ドネルモ代表理事、芸術工学博士）

クリエイティブの構造転換

「創造的な作品」という考え方をベースに人々の絆を生み出そうとした近代美学思想の問題点と、この問題を乗り越える糸口をゼロ年代日本のポップカルチャーに探ります。

III 12.6 thu 19:30-21:30
緑・社会・絆 ーエコロジーー

エコロジー。今日の環境設計において、この言葉は、効率的・機械的・一方向的なありかたから、充実的・生命的・循環的なありかたへの転換を象徴しています。東日本大震災からの復興において、地域のランドスケープを考える学生たちの取り組み、祈りの共同体が都市において守り育んだ緑地である社叢、人と物の循環的なサイクルの中で事業化される森林バイオマスの取り組みなどを通して、緑の環境を織りなす絆を考えます。

朝廣 和夫（芸術工学研究院 環境・遺産デザイン部門 准教授）

東日本大震災、復興支援学生ワークショップ活動を通じて

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災を受けて造園学会関係者が運営した「復興支援学生ワークショップ」を紹介し、環境の視点から考える復興について議論します。

藤田 直子（芸術工学研究院 環境・遺産デザイン部門 准教授）

「鎮守の森」から考える

『鎮守の森』を舞台にして，生きもの同士の繋がりや地域と人の繋がりを考えます。地域の絆や生物多様性をどう守り，育て，繋いでいくのか，神社の森から見つめていきます。

近藤 加代子（芸術工学研究院 環境・遺産デザイン部門 准教授）

絆でつくるバイオマス・タウン

人と人とのつながりや社会参加の在り方が、地域のバイオマス利活用事業の結果をどのように左右していくのか、地域の取り組み例を見ながら考えます。

IV 1.10 thu 19:30-21:30
歴史・文化・絆 ー過去との対話ー

既存のものを破棄して新たなものを創造し、それが世界の先端をかたちづくる。そんな進歩を目指すグローバルな近代主義のあり方から、既存のもの・伝承されたものを受け継ぎ、それを「いま」にふさわしく組み替え、あらたな魅力を再生するあり方へ。過去の人々の生き方に思いを致し、現代に生かしていく社会のしくみについて、日本の近世都市、宗教建築（教会）の再生、歴史的な環境や建造物、それぞれを支える人々の絆から考えます。

藤原 惠洋（芸術工学研究院 環境・遺産デザイン部門 教授）

保護・保存から、保全と活用、そして再生と創造へ

歴史的環境や歴史的建造物が市民社会により愛され受け入れられ、生かされていくにはどのような仕組みや市民相互の絆が必要なのか、実例への介在を通して検討していきます。

岸 泰子（芸術工学研究院 環境・遺産デザイン部門 准教授）

近世の絆と「住みこなし」のできる空間

都市・建築には歴史があり、そこには多様な関係性が存在する。今回は、日本の近世都市を事例に、都市・建築史の視点から「絆」と都市・建築のありかたを考えていきたい。

福島 綾子（芸術工学研究院 環境・遺産デザイン部門 助教）

宗教建築をめぐる人々の絆

宗教建築に関わる人々の絆とは・・・？特にキリスト教会堂が建設され、維持管理される過程からみえるコミュニティの絆とは何かを考えます。

受講料　1 回あたり 1500 円　高大生 1000 円

対象・定員　各回 40 名（定員を越えた場合はお断りする場合がございます。）

申し込み方法

E-mail、FAX、ハガキにて受け付けます。下記の情報をご記入のうえ、お申し込みください。
①受講講座名「絆の環境設計」及び参加希望日（複数希望可）　②氏名（フリガナ）　③住所　④電話番号　⑤年齢　⑥職業等
●E-mail の場合　gkgnyushi@jimu.kyushu-u.ac.jp まで（必ず件名に「公開講座受講希望」とご記入ください。）　●FAX の場合　092-553-4597 まで　●ハガキの場合　〒815-8540 福岡市南区塩原 4-9-1 九州大学芸術工学部学務課宛まで

受講料のお支払について

大学の指定口座へのお振込みとなります。受講料の振込先は、申込時にお知らせします。

会場

リノベーションミュージアム
冷泉荘
B 棟 1 階 2 コ 1 多目的スペース
（福岡市博多区上川端町 9-35）

福岡市営地下鉄中洲川端駅 5 番出口より徒歩 5 分／西鉄バス川端町博多座前徒歩 5 分／冷泉公園と川端商店街の間の細い路地に入る／
※駐車場はありません。

問合せ先

九州大学芸術工学部学務課
TEL 092-553-4587　E-mail gkgnyushi@jimu.kyushu-u.ac.jp

| 主催 | 九州大学芸術工学部環境設計学科　| 後援 | NPO 法人 福岡ビルストック研究会　| コーディネーター | 土居義岳